

市議会議員選挙に合わせた主権者教育の実践と投票率

Practice of Sovereign Education for Local (City Assembly) Election and Its Result (Turnout)

加藤 博和**
Hirokazu KATO

概要

2018年6月投開票の米子市議会議員選挙に当たり、米子高専4年生の社会系選択科目において、米子市の課題を考えたり、アンケート調査の結果を考察して市議選の模擬選挙を行ったりして、選挙への関心を高める授業を行った。米子市議選後に投票率を調査したところ、同科目を受講している学生は44%で、他の社会系選択科目の学生よりも低い結果であった。主権者教育が単純には投票率に結び付かないこと、効果的な主権者教育とするための授業内容の工夫が求められることが含意される。

1. はじめに

2015年6月に公職選挙法が改正され、選挙権年齢が「20歳以上」から「18歳以上」に引き下げられた。実際、2016年7月の参議院選挙から新たに18歳と19歳が選挙権を得ることになり、高校を中心に「主権者教育」が行われるようになった。

「18歳選挙権」は参院選公示後に告示される地方選にも適用される。いずれも7月3日の投開票が決まった福岡県うきは市長選(26日告示)や滋賀県日野町長選(28日告示)が選挙戦になれば、18歳による初の投票機会となる見通しであったが(『読売新聞』2016年6月19日)、日野町長選は4選を目指す現職以外に立候補の届け出はなく、無投票に終わった(『毎日新聞』2016年6月28日)。

参院選(7月10日投開票)に先行し、「全国初の18歳選挙」として3日に投開票されたうきは市長選は、現職が再選された。同市選挙管理委員会は4日、新たに投票権を得た18・19歳の投票率は38.38%であったと発表した。全体の投票率(56.10%)より17.72ポイント低かった(『毎日新聞』2016年7月4日)。

参院選を前に、福知山市の府立大江高では6月10日、現在行われている福知山市長選を題材にした模擬投票を3年生が体験した(同校で7月11日までに満18歳になり選挙権を得る3年生は27人いる。『毎日新聞』2016年6月11日)。

同校では、2017年の衆院選でも投票日を前に生徒たちが京都5区を題材に模擬投票を体験した。既に2・3年生182人が全て済ませ、「本番」と結果比較をする(『毎日新聞』2017年10月21日)。

主権者教育、その中でよく用いられる模擬投票では国政選挙が取り上げられがちであるが、地方選挙も「18歳選挙権」が適用され、模擬投票も行われている。大江高では、模擬投票は、身近で今ある市長選を見て主権者意識を高める一方、福知山市政にも関心を持ってほしいという狙いがあるという。

隅田(2018)は、高校で2016年の参院選に合わせて模擬選挙を実行した後、地方選挙における模擬選挙を実践することを企図し、2017年4月23日投開票の名古屋市長選に合わせて実行した実践を報告している。その中で地方選挙特有の課題も指摘されている。

筆者は、米子高専の2013年度後期の4年生対象の授業で、それまで模擬選挙を衆院選や参院選で行っていたものを、米子市長選で実施した(3回構成で、①講義:「地方自治(住民自治)について」(講師:鳥取県県民課・久保田係長)、②米子市議会見学(説明:議会事務局)、③講義及び模擬選挙:米子市長選(2013年4月)(2013年11月28日~14年1月9日))。

2018年度前期には、実際に米子市議選があり、それに照準を合わせて主権者教育に取り組んだ。本稿では、その内容を紹介するとともに、市議選後に学生にアンケート調査を実施し、投票率も明らかにした。

2. 授業概要

(1)「社会科学Ⅲ」

本校社会科のカリキュラムは、1年生と2年生で歴史を各2単位、2年生で現代社会を2単位、3年生で地理を2単位、全員が履修し、4年生で「文学」I~IV・「社会科学」I~Ⅲの中から2科目(半期1科目×2、合計4単位)を選択履修するようになっている。

* 原稿受理 2019年1月11日

** 教養教育科

筆者は社会科の教員で、4年生では「社会科学Ⅲ」を担当し、半期14回（中間試験を含めて15回）を、3年生までの科目を基盤に“社会を実践的に学ぶ”というコンセプトで構成している。2010年度（後期）から模擬投票・選挙や主権者教育を取り入れている（加藤 2015、2017）。

2018年度前期には米子市議選を組み込み、全14回を表1のように行った。受講者は5つの学科から本科目を選択した48名である。

（2）米子市議選に関する授業の内容

①模擬投票（衆院選）、米子市の課題等について（4月25日）

今回の米子市議選へのフォーカスは、前年度（2018年2月）に主権者教育の取材を地元ケーブルテレビの「中海テレビ放送」から受けた際、記者（川口氏）から、2018年6月の市議選で、連携した企画が何かできないかと持ちかけられたことを1つのきっかけとしている。その話の中で、学生の意見などを取り入れた「共同アンケート調査」の実施が挙がり、川口記者から下記のようなメリットと課題が提示された。

（メリット）

- ・次世代を担う若者が身近な政治への関心を抱く機会に
- ・弊社のテレビ、ネットを生かした発信が可能
- ・弊社の取材網を生かした情報収集が可能

- ・若者の目線というこれまでにない切り口での選挙報道
- ・会社としての主権者教育への貢献につながる（課題）
- ・設問内容には互いの合意が欠かせない
- ・放送に使うためにはビジュアル化、分かりやすさが必要
- ・どこまでやるのか、締切についても見切りが必要（朝日新聞・東京大学の調査は候補者アンケートと意識調査の2本立て）
- ・弊社は投票後の開票速報に使用することが前提。学生は若い世代への選択肢を示すことが目的になるのでは？それぞれの思惑が合致するのか？

報道番組や開票特番で調査結果を世論として使用したいという意図とともに、学生への意識醸成の狙いも持っておられた。

米子市議選の日程から逆算して、4月25日（「社会科学Ⅲ」の第3回）の授業で、中海テレビ放送で作成予定のアンケート調査票（市民・学生対象）に採用できそうな選択肢等を抽出すべく、「今の米子市で取り組んでほしい課題と言ったら、どのようなものが挙げられますか？」、「若者にとって魅力のある米子市にするために大切なことは、どのようなことですか？」などいくつかの設問を並べたワークシートを筆者で作成・配付し（本稿巻末の

表1 「社会科学Ⅲ」：2018年度前期の内容一覧

	授業日	内容	外部講師
1	4月12日	「ニュース検定」2級①	
2	4月19日	「ニュース検定」2級②	
3	4月25日	米子市議選；模擬投票（衆院選）、米子市の課題等について	中海テレビ・川口記者
4	5月10日	ワークルール	みなくる・新井相談員
5	5月17日	新聞について	日本海新聞・高塚記者
6	5月24日	米子市議選；アンケートへの回答・米子市の課題等について グループワーク	中海テレビ・川口記者
7	5月31日	米子市議選；アンケート結果の考察・選挙公報の作成・グループワーク・投票	
8	6月7日	防災・消防団について	鳥取県・國米次長
9	6月21日	消防団見学・放水体験	米子市・松本主事 彦名分団・中村分団長
10	6月28日	米子市議選（事後）；選挙公報比較・模擬投票	
11	7月5日	米子市の交通政策・UDタクシー試乗	米子市・大東主任他 鳥取県・矢吹課長他
12	7月12日	「新幹線」を新聞記事から考える①	
13	7月19日	「新幹線」を新聞記事から考える②	
14	7月26日	公共交通への乗車・UDタクシーPR スライドの発表	鳥取県・宮邊主事

ワークシート①を参照)、個人ワークとして考えて書いてもらうこととした。米子市政への関心を促すブレインストーミングでもある。

それに先立ち、昨年(2017年)10月の衆院選による模擬投票(選挙公報を配付)を行い、政治や選挙への臨場感やリアリティを高めた(図1、図2)。当初、前年(2017年)4月に実施された米子市長選で模擬投票をすれば、その選挙公報に(各候補者の掲げる)市政の課題なども記載されていて今回の市議選の課題にも役立つと考えたが、市長選の落選者が市議選に立候補を予定しているため公平を期す観点から川口記者の指摘を受け、リスクを避ける意味でも、直近の国政選挙とした。



図1 選挙公報を配付し候補者を比較



図2 実物の投票箱に投票

2017年の衆院選・鳥取2区の模擬投票の結果は表2のようになった。自民党現職の候補者の得票率が実際の結果より9.1ポイント高い。自民党の得票率が高い傾向は、筆者が前年度に行った模擬選挙でも見られた。

表2 衆院選・鳥取2区の模擬投票と実際の結果

	模擬投票結果	実際の結果
自民・現職	30 (62.5%)	53.4%
希望・元職	14 (29.2%)	39.1%
共産・新人	4 (8.3%)	7.5%
合計	48 (100.0%)	100.0%

続いて、「中海テレビ・米子高専連携アンケート」の目的を、川口記者から説明していただき(図3)、アンケート調査票の選択肢などに反映したいということもあって、学生たちにはワークシートの各設問に、できるだけたくさん考えて箇条書きするよう指示した。



図3 中海テレビ放送・川口記者による説明

②アンケートへの回答・米子市の課題等についてグループワーク(5月24日)

米子市議選に関する最初の授業(4月25日)で、米子市の課題等について学生たちが考えて箇条書きしたワークシートを、川口記者が一読され、アンケート調査票の原案を作成された。それを基に筆者と討議を重ね、「米子市議会議員選挙に関するアンケート」が完成した。

そのアンケート調査を学生にも回答してもらった。

次に、新たなワークシートを作成・配付し(本稿巻末のワークシート②を参照)、事前アンケートに回答してもらった後、グループワークを行った。

①の授業で各設問に各自で考え付くだけ箇条書きしていたワークシート①を返却し、その設問の中から下記の3問について、自分の記載内容を基に、グループ(班)で話し合ってもらった。

1. 今の米子市で取り組んでほしい課題
2. 若者にとって魅力ある米子市にするために大切なこと
3. 市議会議員の役割として期待すること

他の学生の考えや意見を聞くことで、新たな視点に気付いたり、自分の主張を確かめたり補強したり、民主主義のプロセスを学ぶことにもつながると考えるためである。グループは、本校には5つの学科があるが、学科横断的に混合した6名ずつの8班を編成し、普段話すことが少ない学科間で交流できるようにした。一般社会での議論の模擬体験でもある。

出し合った意見等は、各班に配付したA3判の用紙(図4)に書き留め、整理して、リーダー(班長)に発表してもらった(当日の様子は、『朝日新聞』2018年5月24日、『日本海新聞』5月24日、『山陰中央新報』5月26日に掲載された)。

終わりに、授業の感想・意見の記入と事後アンケートに回答してもらった。

③アンケート結果の考察・選挙公報の作成・グループワーク・投票(5月31日)

前週②の授業で学生も回答したアンケート調査の集計結果を川口記者より提供いただき、それを学生にフィードバックして考察してもらうこととした。

設問ごとの結果を貼り付け、考察を記入する欄(及び

考察を交換し新たな考察を書く欄)を設けた、新規のワークシートを作成・配付した(本稿巻末のワークシート③を参照)。

例えば、「米子市の課題」(複数回答可)としては、「地域経済の活性化」(60.8%)に次いで「公共交通の充実」が56.5%と高い。

そうした学生(市民)ニーズをつかんだところで、自分が米子市議選に立候補したと想定して「選挙公報」を作成(図5に記入)するという課題を出した。

平成30年5月31日執行 米子市議会議員一般選挙	選挙公報	米子高専選挙管理委員会

図5 選挙公報記入用紙

「米子市議会議員選挙に向けて」2018/5/24	
グループワーク(班番号:)	
①自己紹介をしてください。 ②班長を決めてください。	
③枠内に、班で出た意見を書き込んで、同じ意見や違う意見を分類するなど意見交換し、発表できるようにまとめてください。	
1. 今の米子市で取り組んでほしい課題	
班で出た意見	まとめ(発表) ※優先順位を付ける

図4 グループ(班)ごとのワークシート

そして、各班の中で1人ずつ「選挙公報」をプレゼン（予定：2分→実際：1分）した上で、班の代表者を決めてもらい（図6）、続いて、各班選出の8名の候補者が順に全員の前で1分ずつ演説した後、「高専米子市議選」の投開票を行った（図7、図8）。

開票の結果、トップ当選したのは21票を集めた学生で、「ロックとアートのまちづくり」に訴求力があつた。政策のユニークさ、プレゼン力や熱意なども投票行動に影響することが体験できたといえる（当日の様子は、『朝日新聞』2018年6月1日、『日本海新聞』6月1日、『山陰中央新報』6月7日に掲載された）。



図8 投票の様子



図6 グループワークの様子



図7 各班代表者による演説

米子市政を取材する地元紙の記者から、議員のなり手不足を指摘する声を聞き、投票する側を育成する主権者教育だけでなく、立候補する側を育成する主権者教育も試行してみた。

いきなり「選挙公報」を作成する課題には難しさもあるが、学生（市民）が求めている課題を把握し、それに対する考察をし、その解決策を提示したり、自らの考えをまとめて主張したりする経験が、地方議員の役割を知り興味を持つ（ひいては、まちづくりの担い手としての自覚を持つ）きっかけになればと思う。

④（事後）選挙公報比較・模擬投票（6月28日）

米子市議選が6月24日に投開票され、その結果を受けて事後にも学習をしておこうと、新たにワークシートを作成・配付して（本稿巻末のワークシート④を参照）、通算4回目となる授業を行った。

最初に、実際の投票率（47.31%）を提示し、その数字についてどう思うかを尋ねた。

次に、実際の選挙公報（残部）を米子市選挙管理委員会事務局からいただいて学生に配付し、ここでも模擬投票を行った。その際、選挙公報を読んで、ワークシートに、候補者の多くが挙げている政策課題や自分が知った米子市の課題などを書くよう指導した（図9、図10）。



図9 実際の選挙公報を読みワークシートに記入



図10 実際の米子市議選の模擬投票

模擬投票の後、実際の米子市議選の開票結果を配布して、考察をできるだけ書くよう指示した。

実際の市議選では落選した2人の候補者が、模擬投票では2人とも上位で当選するなど、異なった（もともと候補者28名に対して、学生は48名であり、少数の候補者に得票が集中したり、得票のない候補者もあった）。

筆者作成のワークシートは内容を盛り込み過ぎていて、時間の都合上、「米子市議会の構成」と「立候補するには」は省略した。

議員や市長らの報酬月額・給料月額と、選挙費用は示した。

授業の感想・意見や、米子市議会（または住んでいる市町村議会）への関心を持ったかどうか、次の米子市議会選挙（住んでいる市町村議会選挙）の投票に行こうと思うかを事後アンケートで問い、米子市議選に関する授業は一区切りした（当日の様子は、『日本海新聞』2018年6月29日に掲載された）。

3. 実際の米子市議選

任期満了に伴う米子市議選には、定数26に対し、現

職21人、元職3人、新人4人の計28人が立候補した。図11は、本校近傍に設置された選挙ポスターである。



図11 選挙ポスター（本校の通学路）

6月24日投開票され、現職21人、元職3人、新人2人が当選した。党派別の内訳は無所属16、公明4、自民、共産各3で、政党の公認候補は全員当選。共産が前回失った2議席を回復した。

投票率は47.31%で、2014年の前回選の51.99%を4.68ポイント下回り、過去最低となった。投票率は3回続けて前回は下回った（『山陰中央新報』2018年6月24日、『毎日新聞』6月26日）。

図12は、川口記者とともに筆者が出演した中海テレビ放送の開票特別番組の様子である（同番組内でもアンケート調査の結果（市民／高専生）が放送された）。



図12 中海テレビ放送の開票特別番組（中央：筆者）

4. 学生の投票率

米子市議選の終了後、4年生と3年生に事後アンケート調査を実施した（調査票は巻末資料として掲載）。

このうち、投票に行ったか否かについての集計結果を、4年生は科目別に表3～表5に、3年生は全体で表6に掲

げた。

4年生は全員18歳以上であるが、米子市以外から本校に通学している学生も含まれ、その学生には選挙権がない。他方、校内にある学生寮の寮生には、住民票を米子市に移しているか否かも尋ねた。

本科目の受講者は表3の通りで、48名中、米子市在住者が18名、寮生で住民票を移している学生が7名で、合計25名が有権者である。そのうち「投票に行った」（当日、及び期日前）と回答した学生は11名で、投票率は44.00%となった。

比較のため、他の選択科目である「社会科学Ⅰ」（歴史）と「社会科学Ⅱ」（倫理）の受講者にも担当教員を通じてアンケート調査票を配布・回収していただき、その結果

が表4、表5の通りとなった。投票率はそれぞれ81.25%、44.44%であった（「文学Ⅰ」と「文学Ⅱ」の受講者にも同様のアンケート調査をしているが、未集計である）。

米子市議選までに3回の関連授業を行った科目と、そうでない社会系科目で、後者の方が投票率が高い結果であった。特に「社会科学Ⅰ」は実際の全体の投票率も大きく上回っている。

3年生は189名いるが、アンケート調査票に自己申告で記載された年齢で「18歳」は47名で、投票率は61.54%となった。

3年生には、市議選の直前の日程で、鳥取県選挙管理委員会事務局の出前授業を受けた（本校では3年前から3年生の合同ホームルームで実施）。

表3 「社会科学Ⅲ」受講者（筆者担当）のアンケート結果

	投票に行った	行かなかった	合計
米子市在住	9	9	18
寮生で住民票を移している	2	5	7
米子市外から通学	なし	11	11
寮生で住民票を移していない	なし	12	12
合計	11	37	48

表4 「社会科学Ⅰ」受講者（歴史）のアンケート結果

	投票に行った	行かなかった	合計
米子市在住	13	3	16
寮生で住民票を移している	0	0	0
米子市外から通学	なし	13	13
寮生で住民票を移していない	なし	7	7
合計	13	23	36

表5 「社会科学Ⅱ」受講者（倫理）のアンケート結果

	投票に行った	行かなかった	合計
米子市在住	8	8	16
寮生で住民票を移している	0	2	2
米子市外から通学	なし	17	17
寮生で住民票を移していない	なし	4	4
合計	8	31	39

表6 3年生（18歳以上の学生のみ対象）のアンケート結果

	投票に行った	行かなかった	合計
米子市在住	16	8	24
寮生で住民票を移している	0	2	2
米子市外から通学	なし	6	6
寮生で住民票を移していない	なし	15	15
合計	16	31	47

「社会科学Ⅲ」が最も低い結果となった。「投票に行かなかった理由」を複数回答で尋ねているが、「興味・関心がなかったから」を選択している学生が8名もいた。

2017年4月に米子市長選が行われた際にも、「社会科学Ⅲ」で市長選を取り上げて主権者教育を行っているが、受講者の事後アンケート調査による投票率は、「社会科学Ⅲ」が60.9%であったのに対し、「社会科学Ⅰ」と「社会科学Ⅱ」の合算で60.9%と同じであった。

本稿で紹介した内容の授業（我流の主権者教育）では投票率向上に結び付かないことが実証された。効果的な主権者教育とはどのようなものであるのだろうか。

他方、前掲表3～表6で、寮生の中に（居住地へ）住民票を移していない学生が少なくない実態が浮き彫りになる。移している学生の方が少数派である。住民票がなければそもそも選挙権がなく、投票に行けない。投票に行かなくても（住民票を移さなくても）不都合はないということでもある。総務省等でも問題視されているが、これが若者の低投票率の一因でもあるのではないか。

5. 授業の満足度

期末試験の際に、「この授業の中で、受講して良かった内容を選」ぶアンケート（内容は表1を参照）を取った。結果は図13のようになった。

最も多かった授業は「ワークルール」で、35人（72.9%）

が挙げた。アルバイトをしている学生などもいて、役に立つ内容であった。「交通①（試乗）」（33人、68.8%）と「消防団体験」（27人、56.3%）が上位に来ているが、「実際に体験する授業は楽しく受けられた」という理由を書いている学生が多い。

米子市議選を取り上げた授業は4回とも下位となっている（最多の「市議選①」で18人、37.5%）。

アンケートの別の設問で、授業で良かった点、改善点・要望を記入してもらったが、米子市議選に関わる場所では、「模擬投票はこれから直結するので良かった」、「米子市の今の状態が知れた」一方、「選挙についての授業は正直つまらない。でも今後のためにもやっておいて損はないと思うから、何か工夫があれば良くなるかと思った」。

「政治を難しくやっていたかなと思う」と難しさを抱いた女子学生もいた。

「ワークシートの量が多すぎるため時間内に書くことができなかった」（同様の意見は複数あった）、「グループワークになっていなかった」、「グループディスカッションはほぼ初対面の人とやると会話が進まないの、同じ学科内でやりたいと思った」などは今後、改善や工夫していきたい。

授業回数に関して、「米子市議選についての時間が多かった」、「市議選の授業が多すぎるかなとも思った」、「全14回のうち、似たようなこと（米子市議会の投票など）が何回かあり、課題を記述する場面でも同じようなこと

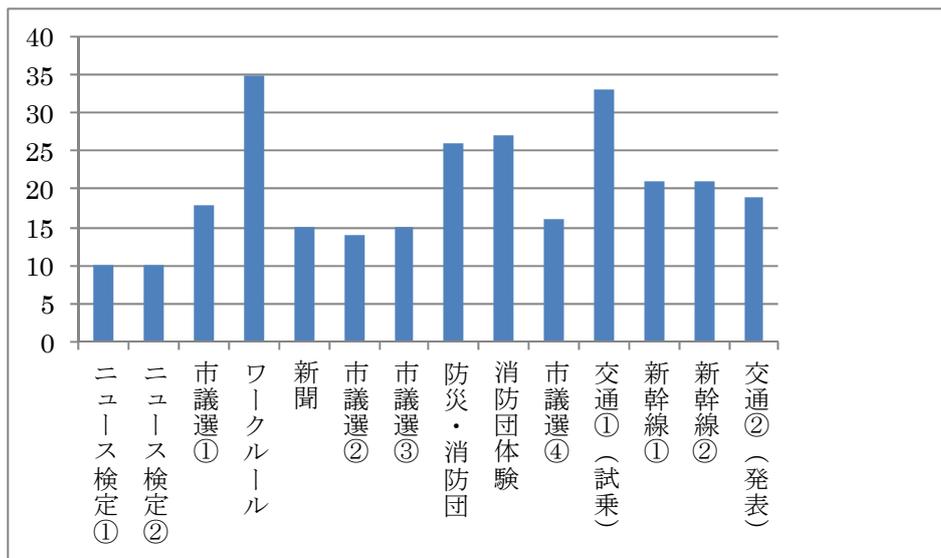


図13 事後アンケートにおける「受講して良かった」授業

注：単位：人。複数回答可。

をよく書いていた。その時はあまり面白くなかった」、「選挙や政治的な話が多かった」と、多いと感じている意見が見受けられた。

「グループワークをもっと増やした方が良かったと思う。グループワークの方がより自分の意見を言いやすいと思うし、話し合いを増やすことで別の意見を取り入れることができるから」、「もっと国や県、市町村などの財政事情について学びたい」や「政治や選挙を学んで経済に興味が出てきたので、その方面の講義も聞きたい」という発展的な要望もあった。

6. おわりに

実際の米子市議選のタイミングを捉えて、2018年度前期に4年生対象の選択科目「社会科学Ⅲ」の中で地方選挙にフォーカスした主権者教育に取り組んだ内容と結果を報告した。

市議選後に行ったアンケート調査で、実際の投票率は、主権者教育を受けた学生と受けていない学生では、受けていない学生の方が（相対的に）高かった。

「投票のまねをしても投票率は上がらないのか」とは『山陰中央新報』（2018年9月27日）に掲載された筆者の嘆息である。

授業内容に関するアンケートでも、ワークルール、UDタクシー試乗、消防団放水体験といった、学生の身近で役立つ内容や体験的な授業が好評であった反面、米子市議選は芳しくなかった。

やり過ぎ、のぼせ過ぎたのだろうか（注：「のぼせもん」とは、島根大学法文学部・毎熊浩一准教授が2018年12月7日の鳥取県私立学校主権者教育研修会で自身を指して言われた表現である）。

本稿は失敗事例報告であり、主権者教育をどのように展開すればよいか自問する。

主権者教育と投票率の因果関係は考察できておらず、事後アンケート調査の分析を継続し別の機会に報告したい。アンケート調査で「投票に行った理由」に「家族に誘われたから」を回答している学生が少なからずいるので、学校以外の要因も関わっているようである。

米子市議選の全体の投票率も過去最低を更新している。「地方選挙は争点が分かりにくく、米子市民以外の学生もいることから学校の取り組みに限界がある。家庭で話題に出すことで意識を高めてほしい」（『日本海新聞』2018年6月22日）面もある。

ただ、米子市議選までに3回の授業を充てて、「興味・関心がなかったから」投票に行かなかった学生が多かった（有権者25名中棄権した14名のうちの8名が回答

したのは、筆者の主権者教育の内容や方法が独り善がり、自己満足の“上から目線”であったと反省しなければならない。社会科自体が主権者育成を目的としているわけであるが、模擬投票など付け焼刃に主権者教育をやっても効果は乏しいのかも知れない。ワークシートを使用した、教材やツールの工夫も必要である。

今回の実践報告では、各回の授業や全体を通して学生たちが何を学び、学ばなかったのか、何を身につけることができたのか。それらの点については明らかにできていないので、検証が必要である。そもそも学生たちの到達・達成目標を明確にしていなかったことも課題である。

2016年7月以降の国政・地方選挙での18歳・19歳の投票率の分析や、学校等への投票所の設置といった各地の選管の施策の効果検証、地元鳥取・島根両県をはじめ各学校・大学等における主権者教育の実施状況や内容・効果・課題などを取りまとめ、情報共有したり、実践を発展させたりすることも重要と考える。

高専は5年一貫教育で学習指導要領に縛られないため比較的自由に授業ができるが、小中高でも、社会科以外でも実践可能な主権者教育も求められよう。

2019年は「亥年」で、4月に統一地方選、7月に参院選と12年に一度の選挙イヤーである。これまでの実践を生かして引き続き主権者教育に取り組んでいきたい。

参考文献

- 加藤博和（2015）「社会科学系科目への「模擬選挙」の導入とその効果」『論文集「高専教育」』第38号、pp.380-385
- 加藤博和（2017）「高専社会科を通じた模擬選挙・主権者教育の実践」『日本高専学会誌』第22巻第2号、pp.3-8
- 隅田久文（2018）「主権者教育の一環としての模擬選挙の実施Ⅱ」『名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要』第62集、pp.168-172

巻末資料

- ワークシート①
- ワークシート②
- ワークシート③
- ワークシート④
- 事後アンケート調査票

「社会科学Ⅲ」2018年4月25日

4年〔 〕学科・番号〔 〕名前〔 〕

中海テレビ・米子高専連携アンケート（市民・学生対象）

6) 今の米子市で取り組んでほしい課題と言ったら、どのようなものが挙げられますか？
できるだけたくさん考えて、箇条書きしてください。

アンケート

1) 昨年10月22日の衆議院議員選挙の投票に行きましたか？（1つ回答）

1. 当日、投票に行った
2. 期日前投票に行った
3. 選挙権はあったが、投票に行かなかった
4. 18歳未満で選挙権がなかった
5. 住民票を移しておらず帰省して投票しなかった

2) あなたの住所等を教えてください。

- 通学生→ 1. 米子市 2. 米子市以外=〔（ ）市・町・村〕
- 寮生→ 帰省先=〔（ ）市・町・村〕
- & 「住民票」を米子市に移していますか？ {1. はい 2. いいえ}

7) 若者にとって魅力のある米子市にするために大切なことは、どのようなことですか？
できるだけたくさん考えて、箇条書きしてください。

個人ワーク

3) 配布した「選挙公報」を見て、候補者を選んでみてください。

- ①今回あなたが選んだ（投票した）候補者は？（ ）
- ②なぜその候補者を選んだのか？ 理由を書いてください。

8) 10年後の米子市にあなたが望むものは、どのようなことですか？
できるだけたくさん考えて、箇条書きしてください。

③候補者を選ぶ際の要素や基準にはどのようなものがあるか？（選挙公報に記載されていないことも含む）
できるだけたくさん考えて、箇条書きしてください。

投票

4) なぜその候補者が当選したのだろうか？ 考えられる要因を挙げてください。

9) あなたが市議会議員の役割として期待することは、どのようなことですか？
できるだけたくさん考えて、箇条書きしてください。

個人ワーク

5) 米子市での生活（市外から通学や遊びに来る場合も含む）に、満足していますか？
(1つ回答)

1. 満足している
 2. やや満足している
 3. あまり満足していない
 4. 満足していない
- その理由・要因は？

10) 選挙権があるという前提で、米子市議選の投票に行こうと思いますか？（1つ回答）

1. 必ず行く
2. たぶん行く
3. たぶん行かない
4. 絶対行かない

「米子市議会議員選挙に向けて」ワークシート 2018/5/31

[] 学科・学籍番号 [] ・名前 []

1. 中海テレビ作成・アンケート回答結果について (5/24 : 受講者 46名)

回答数 構成比

【問1】 市議選の投票に行きますか (一つ)

1 必ず行く	2	4.3%
2 行くつもりでいる	8	17.4%
3 行くかどうか分からない	24	52.2%
4 行かない	12	26.1%
合計	46	

【問1-1】 候補者を選ぶ基準 (一つ)

1 候補者の政策	2	20.0%
2 候補者の実績や経歴	1	10.0%
3 見た目や印象	1	10.0%
4 政党の公認・推薦	1	10.0%
5 家族や知人の意見	3	30.0%
6 職場の推薦		
7 その他	1	10.0%
無効	1	10.0%
合計	10	

【問2】 投票で生活は変わると思うか (一つ)

1 変わる	1	2.0%
2 少しは変わる	12	26.0%
3 あまり変わらない	26	57.0%
4 変わらない	7	15.0%
合計	46	

【問3】 投票の参考にするメディアは (複数)

1 テレビ	20	43.4%
2 新聞記事	11	23.9%
3 候補者のポスター	17	36.9%
4 候補者のHP、ブログ、SNS	7	15.2%
5 選挙公報	10	21.7%
6 その他	2	4.3%
合計	67	

【問4】 米子市の課題 (複数)

1 地域経済の活性化	28	60.8%
2 人口減少対策	6	13.0%
3 雇用・労働問題	12	26.0%
4 公共交通の充実	26	56.5%
5 医療・介護・福祉	4	8.6%
6 子育て支援	2	4.3%
7 教育・文化振興	5	10.8%
8 環境保全	2	4.3%
9 防災や安全・安心なまちづくり	1	2.1%
10 行財政改革	1	2.1%
11 その他	1	2.1%
無効	1	2.1%
合計	89	

【問5】 市内中心部の活性化について (一つ)

1 市全体の活性化につながり積極的に推進すべき	20	43.5%
2 効果を見極め慎重に進めるべき	19	41.3%
3 これ以上進めるべきではない	1	2.2%
4 効果は期待できず今すぐ見直すべき	1	2.2%
5 どの選択肢にも当てはまらない	5	10.8%
合計	46	

【問6】 今後重視すべき政策は (一つ)

1 防災や都市機能を充実し便利で安心な暮らしを実現	11	23.9%
2 医療や福祉、教育の充実など市民生活を重視	8	17.4%
3 企業誘致による雇用の確保や地域経済の発展	20	43.5%
4 恵まれた自然環境など地域の特長を生かした産業創出	7	15.2%
合計	46	

【問7】 若者に魅力のあるためにすべきことは (複数)

1 若者が働きやすい環境づくり	15	32.6%
2 子育て支援の充実	5	10.8%
3 高度で専門的な教育の機会	6	13.0%
4 交通機関、高速交通網の充実	21	56.5%
5 情報通信環境(フリーWi-Fiなど)の充実	11	23.9%
6 買い物や遊ぶための場所を増やす	23	50.0%
7 その他	1	2.1%
合計	82	

「米子市議会議員選挙」ワークシート 2018/6/28

[] 学科・学籍番号 [] ・名前 []

1. 米子市議選の結果

当日有権者数：120,968 人

1) 投票率

_____パーセント（当日投票者数： _____ 人・期日前・不在者： _____ 人）

どう思うか：

2) 模擬投票：「選挙公報」を見て、あなたは誰に投票しますか？ []

その理由：

3) 政策課題

① 「選挙公報」を見て、候補者の多くが挙げている課題等はどうのようなものですか？

例えば、「地域経済の活性化」を挙げている候補者数：

② 「選挙公報」を見て、あなたが知った米子市の課題等はどうのようなものですか？

③ 「選挙公報」に書いてあると良い、あるいは必須の項目として、あなたはどのようなことを挙げますか？

例えば、この候補者の選挙公報が良い：

4) 開票結果

① 模擬投票の結果

② 実際の結果の予想と理由（有効投票数： _____ 票・無効投票数： _____ 票）

	候補者名	得票数	理由
1			
2			
3			
4			
5			
:			
27			
28			

③ 実際の結果を見て、考察（どのようなことが言えるか）をできるだけ書いてください。

2. 米子市議会の構成

① 年齢：最年少（ _____ 歳）～最年長（ _____ 歳）、平均年齢：
20代： _____ 30代： _____ 40代： _____ 50代： _____ 60代： _____ 70代： _____ 80代： _____

② 性別：男性： _____ ・女性： _____

③ 党派： _____

④ 現職・元職・新人の別：現職： _____ ・元職： _____ ・新人： _____

⑤ 最終学歴：中卒： _____ ・高卒： _____ ・専門卒： _____
・大卒(中退)： _____ ・大学院修了： _____

⑥職業：

⑦住所：

⑧当選回数(合併後)：1回： ・2回： ・3回： ・4回： ・5回：

3. 特別職の報酬、給料の状況(平成29年4月1日現在)

①報酬月額・給料月額

議長 : _____円 市長 : _____円
副議長 : _____円 副市長 : _____円
議員 : _____円 教育長 : _____円

②この金額をどのように思いますか？

4. 立候補するには

①被選挙権があること

市区町村議会議員：日本国民で満()歳以上であること。
その市区町村議会議員の選挙権を持っていること。

②法務局に供託金を預ける

その他の市区の議会：()万円(没収される得票数：有効得票数÷議員定数×1/10未滿)

③立候補の届出

立候補届出受付

日時 平成30年6月17日(日曜日)午前8時30分から午後5時まで

会場 米子市立図書館2階研修室

届出順位の決定 午前8時30分までに受付場所に到着した候補者が2人以上いる場合は、くじにより届出順位を決定します。

④必要な届出書類を提出

(<https://senkyo-rikkouho.com/rikkouho-kyoken.html>を参照)

(鳥取県HPより)

選挙公営について

公職選挙法はお金のかからない選挙を実現するとともに、候補者間の選挙運動の機会均等を図る手段として選挙公営制度を設けています。

○選挙公営とは

・国又は地方公共団体が候補者の選挙運動の費用を負担する制度です。
・衆議院議員選挙及び参議院議員選挙は公職選挙法、知事・市町村長選挙及び県・市町村議会議員選挙は各地方公共団体の条例に基づく制度です。

○選挙公営の種類

【実施には直接関与しないが、経費の負担のみを行うもの】

選挙運動用自動車の使用

通常葉書の交付

通常葉書の作成

ビラの作成

選挙事務所の立札・看板の作成

選挙運動用自動車等の立札・看板の作成

ポスターの作成

新聞広告

政見放送

経歴放送

演説会場の立札

看板の作成

特殊乗車券等の無料交付

【内容は候補者等が提供するが、その実施は選挙管理委員会が行うもの】

ポスター掲示場の設置

選挙公報の発行

【選挙管理委員会は便宜を供与するが、実施は候補者が行うもの】

演説会の公営施設使用

【選挙管理委員会がその全部を行うもの】

投票記載所の氏名等の掲示

※選挙の種類により、公営となるものが限定されています。

○公営の限度額

【省略】

5. 選挙費用(米子市・平成30年度当初予算案)

任期満了による市議会議員一般選挙執行経費(報酬、職員手当等、賃金、需用費、役務費、委託料、使用料及び賃貸料、負担金、補助金及び交付金)

_____円 ÷ 120,968(当日有権者数) = (1人当たり費用) _____円

6. 本日の授業の感想・意見などを自由に書いてください。

Q1.米子市議会(または住んでいる市町村議会)に関心を持ちましたか？

1. 関心を持った
2. 少し関心を持った
3. あまり関心を持たなかった
4. 関心を持たなかった

Q2.次の米子市議会選挙(住んでいる市町村議会選挙)の投票に行こうと思いますか？

1. 必ず行こうと思う
2. 行こうと思う
3. 行こうと思わない

